

双葉中学校 学校関係者評価書

令和8年 2月19日(木)

(双葉中学校)学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日:令和8年2月18日(水)午後5時～

会 場:双葉中学校会議室

参加者:(学校関係者評価委員)宮坂 長谷部 柳本 高橋 保坂 谷口
(学校側)加藤 保坂 田中

I 学校側から提案された内容

○教職員評価・生徒アンケートについて

- ・教員の自己評価は非常に肯定的で、90%以上が良好。若手教員が増加し、より厳格に自己分析を行う傾向がある。
- ・生徒アンケートでは「清掃活動にしっかり取り組んでいる」が 99.5%と極めて高い。これは単なる作業の徹底ではなく、生徒の意識変革の表れである。
- ・「困ったときに相談できる先生がいる」という項目が上昇しており、教師と生徒の信頼関係が深化している。

○地域連携・達成状況について

- ・家庭科の支援、職場体験、学校応援団の活動を開始。地域の人材力が学校運営に深く浸透している。

○生徒・保護者アンケートの相違について

- ・「先生は勉強をよく教えてくれるか」という項目で、生徒の評価(90%)に対し保護者の評価が低い。生徒の頑張りが保護者に伝わりきっていない可能性があり、情報発信が課題である。

II 協議された主な内容

○清掃活動と教育環境の向上について

- ・3年学年主任を中心に「心地よい環境で学ぶ」価値を3年生が背中で示したことが、全校生徒へ浸透してきている。
- ・2学期末より「自分たちの教室と廊下だけは毎日やろう」という自発的な動きが始まり、「5分清掃」が全学年で定着し、翌朝を清々しく迎える文化が根付いてきている。
- ・PTA 会費等も活用し、校内の不要な備品や廃棄物を思い切って整理。物理的な風通しを良くしたことが、生徒の心にも良い影響を与えた。

○SNSトラブルの実態と家庭との連携について

- ・アンケートでのトラブル把握数(保護者回答 17 件)が、学校把握分より多い現状を確認。
- ・「スマホを持たせた保護者の責任」と「学校での人間関係」を切り離さず、保護者向けの防犯講話など、大人の意識向上を図る仕掛けが必要。

○学校応援団と地域交流の成果について

- ・着付け教室後のお礼の手紙や多世代交流が、双方のウェルビーイングに寄与。地域住民が「中学校に来るのが楽しみ」と感じる関係が築けている。

○教職員の配置と市への働きかけについて

- ・校内教育支援教室(こすもす)の予算化に伴う専門人材の確保について。地域と連携しつつ、市へ必要な人的支援を継続的に要望していく。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

○学校運営・教育環境の整備について

- ・「環境が人をつくる」を実践し、特別な指導の変更ではなく生徒自身の意識変革によって清掃・環境美化が整っている点を高く評価したい。
- ・行事や授業、テント設営等で見せる生徒の主体的な姿から、確かな成長が実感できる。

○教職員と生徒・保護者の信頼関係について

- ・相談できる体制が整い、安心できる学校環境にある。SNS等の見えにくい課題については、家庭と責任を共有し、本音で話し合える関係性をさらに深めることが期待される。

○学習指導・ICT活用について

- ・「ふたばスタイル」として確立されたICT活用授業において、生徒の意欲と発想力が大きく向上。学校全体での授業改善の成果が顕著である。

○学校・地域・保護者の連携意識、参画意識について

- ・学校応援団の活動は大成功である。地域の方の新たな協力体制もあり、地域と共にある学校づくりが具現化されている。

II 特徴

○環境改善を通じた「心の安定」と「主体性」

- ・3年生が築いた「環境を整える姿勢」が下級生に広がり、学校全体の落ち着きに繋がっている。「5分清掃」のような自律的な取り組みが、学習に集中できる土壌づくりの一步となっている。

○「相談しやすい」環境の構築

- ・生徒指導の枠を超え、生徒が先生に対して心を開いている様子が数値やエピソードから見取れる。

○生徒の意識変革と「双葉スタイル」の浸透

- ・ICTを駆使し、個別最適な学びと協働的な学びに注目した授業がどの教科においても工夫され始めている。自信を持って現在の教育を継続してほしい。

○地域人材の積極的な導入

- ・外部の力を柔軟に取り入れることで、教職員の負担軽減と教育の質の向上を両立させた。

III 今後の課題として意識されたいこと

○清掃・美化文化の継承と応用

- ・現在の「美しい環境を尊ぶ文化」を伝統として継承する。また、この高い自律性をSNS等の「見えない情報の環境整備(トラブル防止)」にも応用していく。

○SNS・情報リテラシー教育の再構築

- ・学校行事等の機会に保護者向け研修を設定し、家庭での管理責任を促す。早期相談ができるネットワークを模索する。

○評価のギャップ埋め(情報発信)

- ・生徒の学校での頑張りをより具体的に伝え、学習指導に対する生徒・保護者間の認識のズレを解消していく。

○専門人材の確保と継続的な仕組みづくり

- ・学校応援団等の活動が特定教員の負担にならないよう、市へ声を届けるとともに、組織的な分掌を検討し継続性を高める。

※特記事項

記載責任者(双葉中学校 学校関係者評価委員) 氏名:宮坂 雄次郎

